

岩手県人会＝親睦旅行でカナネイアへ

＝日系ホテルで魚介を満喫

2014年11月20日



参加者全員で記念写真

岩手県人会(千田曠暁会長)が14日から16日まで、聖州カナネイアへ親睦旅行に出かけた。サンベルナルド・ド・カンポ、コチアなど近郊からも集まった参加者43人を乗せたバスが、初日深夜にリベルダーデ広場を出発した。

海岸沿いの街カナネイアは1531年にポルトガル人のマルチン・アフォンソ・デ・ソウザ率いる遠征部隊が上陸しており、サンビセンチと町創立最古を争う歴史を誇る場所だ。カキの養殖が盛んで、釣り人も多数訪れる港町としても有名だ。

翌朝午前6時に老舗日系ホテル「コッケイロ」に到着した一行は、遊覧船で景観を楽しんだ。小雨が降る中、カキの養殖場や、背びれを出して泳ぐイルカなどが乗客を楽しませた。

午後はフェリーでコンプリーダ島へ向かった。海水浴などでリラックスし、ホテルの食事では新鮮な生カキ、白身魚の刺身、魚介類のリゾットなどで空腹を満たした。翌日は自由行動、魚屋でお土産を購入する者、釣りで時間を過ごす者などそれぞれ過ごした。

千田会長は「参加に感謝。家族のようなひと時を楽しく過ごせた」と充実の表情。モジ在住の菊池達郎さん(86、岩手)、カツエさん(80、福岡)夫妻は初のカナネイアに「海辺の町でのんびり過ごせた。おいしいカキなども味わえて大満足」と満喫した様子で話した。

ひとマチ点描■最古の街の日系ホテル

2014年11月20日



ホテル「コッケイロ」外観

岩手県人会一行が宿泊したホテル「コッケイロ」を経営するのは中島佳子（よしこ）さん（75、二世）、ファビオさん（39、三世）親子だ。

1939年、当地に生まれた佳子さんは1歳半の頃、観光で日本へ。瀬戸内海の小豆島を訪れたが開戦となり、帰国できなかつたとか。63年に帰伯し東山銀行勤務を経て結婚。夫の仕事が一段落した74年にホテルを開業した。「候補地を探して海岸沿いの街をいくつも見て周ったわ」と懐古する。

新鮮な魚介類に加え、「空気がきれいで食欲も沸く。水道水も直接飲めるほど環境が良い」という。「日本茶や味噌汁はブラジル人には任せられない」ので、今も自ら台所に立つ。繁忙期でも2人で調理を行なうなど多忙の様子だ。

漁港まで徒歩10分の立地、客室は全28で家族用に6人部屋も。住所＝Av. Independencia, 542、電話番号＝13・3851・1255、サイト＝www.hotelcoqueiro.com.br